

プロピレンの新規製造技術に関する共同開発について

三菱化学株式会社
日揮株式会社

三菱化学株式会社（本社：東京都港区、社長：小林 喜光、以下「三菱化学」）と日揮株式会社（本社：神奈川県横浜市、会長兼 CEO:竹内 敬介、以下「日揮」）は、両社の独自技術をベースにプロピレン新規製造技術（以下「新技術」）を共同で開発してまいりましたが、この度、両社共同で実証設備（以下「パイロット設備」）を建設し、商業化に向けた確認を開始することに合意いたしました。

プロピレンは、ナフサクラッカー、石油精製の接触分解設備（FCC 装置）等で製造されており、ポリプロピレン等自動車部品や生活用品等に幅広く使用されている石油化学製品の基礎石化原料であり、その需要は拡大しております。一方、将来的にみて国内におけるエチレン需要は減少傾向にあるためナフサクラッカーの稼働率低下等に伴いプロピレンの生産量の減少が懸念されております。

三菱化学及び日揮は、石油を原料としないメタノール/ジメチルエーテル（DME）（注1）及び未有効利用オレフィン類（注2）を原料として選択的にプロピレンを製造する新技術を 2007 年度から共同開発してまいりましたが、今般、新技術開発に目途が立ったことから、パイロット設備を下記の通り建設し商業化に向けた確認を実施いたします。（新技術の全体概要については、別紙の通り）新技術は、今まで有効利用されてこなかった留分を有効活用できることに加え、従来プロピレン製造法であるナフサクラッカーと比べ CO2 排出量が少なく CO2 削減に寄与できます。

検証終了後は、両社は国内外の企業へ技術供与を検討するとともに、三菱化学では新技術を導入した製造設備の建設についても検討してまいります。

注1：液化天然ガス（LNG）やコークス製造時に副生される COG（コークス炉ガス）から製造したもの

注2：ナフサクラッカー等から副生された今まで有効利用されていなかったオレフィン類

記

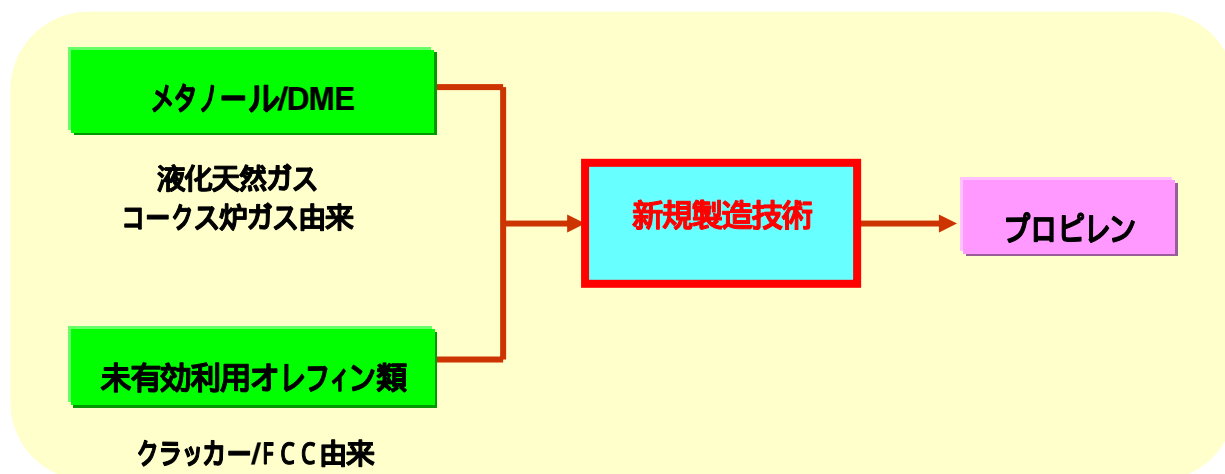
建設場所	三菱化学水島事業所内
投資額	約 26 億円
着工時期	2009 年 11 月（2010 年 7 月末完成予定）

以上

【問合せ先】

三菱化学株式会社	広報・IR室	03 - 6414 - 3730
日揮株式会社	広報・IR部	045 - 682 - 8026

【新規製造技術の全体イメージ】



が今回建設するパイロット設備において商業化に向けた確認を行う新技術